第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会
O-208
愛知, 2024.11.14-15

チョコレート嚢胞に対するART前の反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法の有効性

辻勲[1], 重田護[1], 井谷裕紀[1], 樽井千香子[1], 中岡義晴[2], 福田愛作[1], 森本義晴[3]
1. IVF大阪クリニック
2. IVFなんばクリニック
3. HORACグランフロント大阪クリニック

【目的】
チョコレート嚢胞(以下, 嚢胞)摘出術は, ART成績の向上に寄与せず, 卵巣予備能に与える影響が大きい. 一方, 嚢胞摘出術を行わない場合, 嚢胞による卵子の数的・質的な低下, 採卵時の嚢胞感染などの問題があり, ART前の嚢胞の取扱いについてはコンセンサスがない. 本研究の目的は, 嚢胞に対するART前の反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法の有効性について検討することである.
【対象】
ART予定の嚢胞患者を対象とした. 対象を反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法後にARTを施行する患者(治療群, n=30)と, 無治療でARTを施行する患者(無治療群, n=50)に振り分け, ART成績について前方視的に検討した. 嚢胞穿刺吸引術は経腟超音波ガイド下に実施した. 術後1ヶ月毎にフォローアップし10mm以上の嚢胞を認める場合再穿刺を行った. ジェノゲストは2mg/日を3ヶ月間投与した. 当院倫理委員会の承認を得て実施した.
【結果】
採卵数, 成熟卵数, 受精率, 胚盤胞数, 胚盤胞到達率は, 両群で差がなかった. 治療群と無治療群の累積臨床妊娠率に差はなかった(60.0% vs 60.0%). 嚢胞の側性と大きさ別による検討では, 累積臨床妊娠率は両群で差はなかった. 左右共40mm以上の両側嚢胞では治療群5例全例が妊娠した. 無治療群は該当患者がなかった. 反復ART不成功患者を対象とした検討では, 全体の累積臨床妊娠率は両群で差がなかった. 両側嚢胞の場合, 累積臨床妊娠率は, 治療群が無治療群より高い傾向があった(100.0% vs 33.3%, p=0.058). 嚢胞の大きさは, 治療前は治療群が無治療群より大きかったが(43.5±15.6mm vs 26.2±10.8mm, p<0.001), 治療後は差がなかった(25.3±11.7mm vs 30.1±14.3mm, 観察期間中央値10ヶ月)
【結論】
反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法は嚢胞の持続的な縮小効果があり, 手術を回避してARTを実施でき, 両側の大きい嚢胞や反復ART不成功患者のART妊娠率を向上させる可能性が示唆された.